

交流，共同学習の記録

1 学校名，授業者名

- ・自校 由利本荘市立鶴舞小学校 佐藤 睦子, 小野 哲, 笹木 幹子, 菊地 新吾
- ・相手校 鹿角市立十和田小学校 塚本 定明, 片岡美由貴

2 学年，組

- ・自校 5年松，竹，梅組
- ・相手校 5年1，2組

3 交流・共同学習のねらい

- ・米づくり体験から生まれた「？」をもとに，稲の病害虫，生長と作業，米の種類や料理などについて調査し，情報交換を通して調査内容をより確かなものにしたり，広げたり深めたりする。

4 学校外の人にTV会議システム利用を広げるねらい（必要性）

- ・学校外の支援者 お米の生産者
- ・ねらい

調査から生まれた子どもたちの疑問を互いに追究するが，限界がある。図書やインターネットでは解決できない疑問に答えてもらったり，詳しく解説してもらったりするために，お米作りのプロ（生産者）をゲストティーチャーとして招く必要があった。

5 実際

(1) 教科，単元名（題材名）

- ・総合的な学習の時間「My 米博士になろう！～ライスフェスティバルを成功させよう！～」

(2) 本時の実際

- ・お米作りのプロをゲストティーチャーとして招き，同じテーマで調べ活動を行っている十和田小学校と共同で学習することで，自分たちの調査内容を確かめたり比較したり，さらには疑問を質問，解決したりする。

(3) 本時の実際（10月28日3校時）

学 習 活 動	教師や（学校外の人）の支援
（事前）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に分かっている質問事項を交換し合い，打ち合わせで本時の流れなどを確認しておく。（前日まで） ・予想される質問事項などをあらかじめゲストティーチャーに伝えておく。
1 本時の活動を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の各自のめあてを確認する。 ・十和田小にゲストティーチャーを紹介する。 ・パソコンと書画カメラを接続しておき，資料を提示できるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ライスフェスティバルに向けて調査をしたり，まとめをしたりしよう。 </div>	

- 2 十和田小学校と交流する。
 (主な質問や情報)
- ・十和田市と由利本荘市では、なぜ植えている品種が違うのか。
 - ・お米のお菓子を紹介します。
 - ・十和田では、いねをどんなふうに干していますか。
 - ・刈り取ったあとのわらはどうしますか。

- ・交流して分かったことと疑問に思ったことをはっきりさせるために、進行のサポートをする。
- ・ゲストティーチャーから答えてもらう。
- ・疑問を解決するために、有効だと思われるところでゲストティーチャーの出番をつくる。

十和田市で植えている「あきたこまち」は生育が早い品種なので、比較的気候が穏やかな由利本荘市では、「ひとめぼれ」を中心に植えている。

- ・分かったこととさらに疑問に思ったことを整理する時間を設定する。

十和田で行われている「たんぼがけ」という方法は、こちらの「かさがけ」と同じ方法である。

- ・十和田小から得た情報をまとめて生かすことができるようまとめ方を例示する。



(写真1: 交流の様子)



(写真2: ゲストティーチャーのお話)

- 3 活動を振り返る。

- ・めあてと照らし合わせて自己評価をする。

6 実践を通しての提言

- ・自校でゲストティーチャーを依頼できないとき、他校のゲストティーチャーを活用できるということは画期的なことである。特に、今回の交流では、疑問に思ったことをその場ですぐに質問できるといったリアルタイムなやりとりができた。
- ・他校との交流には、打ち合わせの時間の確保・調整、学習のねらいのすりあわせなど多くの負担を伴っている。特に、それが1時間だけではなく数時間の交流となるとさらに難しいものがある。今後は、交流をすることで効果のある単元を洗い出し、実践を積み重ねることが大事だと考える。
- ・他校の人材活用については、人材リストを作成し、すべての学校で必要としたときに自由に活用できるような仕組みを整備していかなければならないのではないか。